

2022年度 第6回 地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会 議事録

- 1 日 時 2023年1月12日(木) 午前10時~12時20分
- 2 場 所 明石市立市民病院 本館2階 講義室
- 3 出席者(委員)
 - 明石純委員長
 - 日下孝明副委員長
 - 中田精三委員
 - 工藤美子委員
 - 武田英彦委員
- 4 議 事 公開
- 5 概 要 (1) 令和4年度上半期の運営状況について
(2) 第4期中期計画(案)について
傍聴者 1名

<資 料>

資料1・・・第4期中期計画(案)

資料2・・・中期計画新旧比較表(案)

6 議 事

1 開会	開会の宣言
2. 議事 委員長	まずは、上半期の実績について概要を法人に説明していただき、質疑応答を挟んだのちに、中期計画について説明をお願いしたい。
法人	資料3 明石市立市民病院の活動状況について（2022年度上半期）に基づいて説明。
委員長	上半期の実績について質問はないか。 (質問なし) 続いて、中期計画について説明をお願いします。
法人	資料1 第4期中期計画（案）及び 資料2 中期計画新旧比較表（案）を集約し資料に基づいて説明。
委員長	中期目標に基づいて、法人が計画を実行し、それを的確に評価していくためには、計画そのものの内容が重要である。後ほど、計画の項目ごとの説明をお願いしますとして、まずは、概要説明部分で質問や指摘はあるか。
委員	入院収入について収入が上がる要素は説明があったが、外来収入についてはどうか。
法人	小児科などコロナ禍前と比較すると、医療需要自体が減少している面もあり、どこまで患者数が戻るか読めない部分もある。
委員	診療科をどうするか。医師を70名に増やそうとしているが、どういう考えからかお聞きしたい。中期計画を立てるにあたり、診療のあり方など、経営として何を中心にすえて考えられているのか。
法人	外来に関しては、コロナ禍による受診抑制などで患者が減少してはいるが、しっかりとやっていく必要があると考えている。具体的には整形、内科全般、血液内科あたりに地域ニーズがある。CTなどの検査や抗がん剤などの化学療法等の定期受診患者など、数は少ないが外来診療単価が高い患者や入院につながるような患者を増やすことや、地域ニーズがある整形や血液内科、総合内科などを評価していく必要がある。
委員長	中期計画の検討に入る前に確認しておきたいが、2019年度の入院収益51.8億で、2022年度見込み値は60.5億円。そのうち特例加算11億円を差し引きすると49億円ということになるが、2019年度の実績値にほぼ戻ってきていると判断してよいのか。
法人	その通り。医療の内容的にも戻ってきている状況もある。ただ、収益の中にはコロナにかかる特例加算が非常に大きいので、次年度以降、特例加算がなくなった時の影響は避けて通れない。
委員長	医療内容を元に戻していくにあたり、コロナ以外の部分で増やしていく

	には、どうかたちで医療を提供していけるかというところになる。 その他、ご意見等はないか。
委員	昨今、病院でもデジタル技術の有効化が必要となってきたが、大学院等で優秀なエンジニアは、圧倒的に開発スピードが速い海外に就職する。これからは、海外との人財の獲得競争も出てくる。その意味で、単年度の人件費は必然的に上昇するが、これを費用と捉えるのではなく、投資と捉える価値観が必要になってくる。
法人	病院によっては看護職、医療職もイスラム圏のスタッフが多数入っている所もある。そういう面も含めての提言と受け取った。
委員長	では、法人に中期計画の説明をお願いします。
法人	<u>資料1</u> に基づいて中期計画本文の説明
委員長	確認や指摘事項はあるか。
委員	入院診療単価（急性期）の目標値が65,000円と低くなっているが、これは2021年度の実績値はコロナの影響で72,313円であったが、コロナ禍前と同水準の目標値になるとの理解でよいか。
法人	その通り。
委員長	地域包括ケア病棟の入院診療単価は、36,723円から39,000円に少し目標単価を上げているのは？
法人	今回の診療報酬改定において、地域包括ケア病棟への入院患者については、地域からの入院患者の受入れを一定以上確保することが評価されるようになった。それに伴って、殆ど処置の発生しない眼科の患者については、急性期ではなく地域包括ケア病棟で診るという対応に変更した影響である。
委員	全文について、第3期からの変更点をお示しいただきたい。
法人	基本的には、「公立病院経営強化プラン」に則り、感染症対応、働き方改革対応、経営強化という3点を明記している点が相違点で、基本的な方針は変わっていない。 また、今後のあり方については、前文の「第4期は、その将来構想を実現するための再整備計画を進めるにあたり、行政とも慎重に協議のうえ、より具体的な基本構想・基本計画の策定に着手する必要があると認識している。」という部分に理事長の思いが入っている。
委員	今回初めてはっきりと建替えという言葉が出てきた。建替えのための目標値というものがあり、途中で変更する可能性もあるのではないか。
法人	基本的には単年度の目標を積み重ねて4年間となる。再整備に向けての計画は単年度の計画の中でディスカッションせざるを得ない。
委員	その方向性は理解しているが、建物の耐用年数が限られているので、時間がないというのも事実である。

法人	それは医療を預かる法人が一番危機感をもっている。現に給湯配管が壊れてお湯が出なくなったこともある。病院の耐用年数は38年とすれば、時期がきていると考える。
委員長	<p>再整備については、法人において、例えば何㎡の建物を建てて、幾らかかって、資金調達して…といった具体的な資金計画、財務計画、返済計画を含めて、検討を進めておいていただく必要があると考える。</p> <p>委員からその他の意見については、事務局を通じて集約のうえ、法人へお示しさせていただくこととする。</p>
3. その他 市事務局	次回の評価委員会の日程について案内。
4. 閉会	第6回評価委員会を終了する。